



# 市政羅針盤

市長が自ら、市政運営の方針を分かりやすくお伝えします。 ㊟秘書課 ☎ 36-7117

今月のテーマ 市役所新庁舎建設と市民会館機能の再生について

市民の皆様から高い関心が寄せられている市役所周辺整備について「基本構想(案)」を策定しましたので、今月はこの件についてご報告いたします。

建築から56年が経過して老朽化が進む「市役所本庁舎」(昭和37年建築)、総合文化施設「プラザおおるり」(昭和58年建築)、そして平成28年に取り壊した「市民会館」の再建の是非などについて、外部有識者等で構成する「市役所周辺整備基本構想検討委員会」の皆様、計9回にわたり協議と現地視察を重ねていただきました。7月24日には、検討委員会の海道清信委員長(名城大学教授)から市へ意見書が提出され、市役所周辺整備は本庁舎の整備を先行して行うように示されました。一方で、文化施設については当面の間、プラザおおるりを活用しながら、文化芸術政策の方向性を定め、財政運営上の不安要素の解消と人材確保といった課題解決を図り、より深い検討を進めていくよう提言を受けました。さらに、市役所周辺整備事業が目指すまちづくりの理念を「人がつどい 文化がうまれ まちがつながる みんなの広場」と表現していただきました。

この意見書を受けて市が策定した「基本構想(案)」(市ホームページに掲載)の骨子は、次の通りです。

まず、施設の老朽化や設備の劣化により、災害対応などが課題となっている市役所本庁舎については、2022年度を目途に、現庁舎東側駐車場(旧市民会館が建っていた場所)に新庁舎を整備してまいります。これは、同時並行で進めている市民病院建設や新東名島田金谷イン

ターチェンジ周辺整備事業といった大規模事業のスケジュールとの兼ね合いや、有利な財源となる合併特例事業債の活用期限を考慮して判断したものです。

次に、新たな文化施設の整備については、財政負担の平準化および文化振興施策の方向性を明確化する必要性などから、新庁舎と同時期の事業化は困難であり、当面の間、プラザおおるりに必要な改修を加えながら文化振興にかかる機能を維持していくこととしました。

プラザおおるりは、昭和58年の開館当初から使用している舞台音響装置や吊り物などの設備改修が喫緊の課題であり、ホールの安全対策、観客のアメニティ対策および館内トイレの改修なども課題となっています。そのため、新庁舎の建設と並行して早急に改修する部分と、新庁舎完成後に改修する部分との2段階に分けて改修を進めてまいります。また、新しい文化施設については、今後「島田市文化芸術推進計画」の策定を通じて文化振興施策における位置づけを明らかにした上で、プラザおおるりが築50年の耐用年数を迎える2033年頃を目途に事業化を検討することになります。



染谷市長に意見書を提出する委員

さて、現在、基本構想(案)はパブリックコメントを募集中です。秋には、次のステップである「新庁舎整備基本計画」策定作業に入ります。今後、島田市のレガシーとなる本庁舎がどのようなものになるのか、皆様も楽しみにしてください。

## みんなのひろば

皆さんから寄せられた地域の「ニュース」「イベント」「声」などをご紹介します。

本赤十字社静岡県支部島田市地区および島田市赤十字奉仕団では、7月の西日本豪雨により甚大な被害を受けた人たちにできる支援を行うため、災害義援金の受け付けをしています。より多くの皆さんに協力を呼びかけるため、7月17日～20日の期間、市役所1階の正面玄関ロビーで義援金の呼びかけを行いました。

集まった災害義援金は、日本赤十字社静岡県支部を通じて、各県の被災地へ届けられます。島田市も、大井川をはじ

め複数の河川に面しており、今回の豪雨災害を他人事だとは思えません。この支援が、猛暑の中で今も苦しい生活を強い



られている被災者の皆さんの助けになれば幸いです。  
(島田市赤十字奉仕団 土田美穂子さん)